

本キリスト教会大阪北教会

2016年7月10日 礼拝説教 牧師 森田幸男

聖書 ヨハネによる福音書 11章38～44節

11:38 イエスは、再び心に憤りを覚えて、墓に来られた。墓は洞穴で、石でふさがれていた。11:39 イエスが、「その石を取りのけなさい」と言われると、死んだラザロの姉妹マルタが、「主よ、四日もたっていますから、もうにおいます」と言った。11:40 イエスは、「もし信じるなら、神の栄光が見られると、言っておいたではないか」と言われた。11:41 人々が石を取りのけると、イエスは天を仰いで言われた。「父よ、わたしの願いを聞き入れてくださって感謝します。11:42 わたしの願いをいつも聞いてくださることを、わたしは知っています。しかし、わたしがこう言うのは、周りにいる群衆のためです。あなたがわたしをお遣わしになったことを、彼らに信じさせるためです。」11:43 こう言ってから、「ラザロ、出て来なさい」と大声で叫ばれた。11:44 すると、死んでいた人が、手と足を布で巻かれたまま出て来た。顔は覆いで包まれていた。イエスは人々に、「ほどいてやって、行かせなさい」と言われた。

説教『キリスト、ラザロを生き返らせる』

◆只今司会者は「この騒然とした、命が易々と奪われるこの世界において、われら如何に生きるべきか示し給え」と祈られました。私はこのお祈りを聞きながら宇田達夫先生が書かれた『シモーヌ・ヴェイユの死と信仰』を思い出しました。シモーヌ・ヴェイユはフランス系ユダヤ人で、哲学者です。1943年に34歳で亡くなっています。死亡診断書には「栄養失調と肺結核による心筋層の衰弱から生じた心臓衰弱。患者は精神錯乱をきたして食事を拒否、自ら生命を絶った」と記されていたそうです。宇田先生の理解は、第2次世界大戦下における難民の飢えと一体化するべく、自ら食を断ち、餓死したというものですが、ここに大事な示唆があると思います。私たちは今回のようにバングラデシュ・ダッカにおける日本人7人の犠牲者のことを思いますが、世界には今も日々数え難い犠牲者が出ているのです。わたしたちがそういう人達と苦しみを共有する。それがなければ、他に何があっても空しいのではないのでしょうか。ヴェイユに「祈りは想像力である」という言葉がありますが、示唆的です。

◆ところで、私たちはヨハネによる福音書11章を数回にわたって読んできました。今日の箇所は、死んで墓に葬られて4日経つラザロを、イエス様が生き返らせたという、『ラザロ物語』の頂点です。何と云っても、キリスト教の信仰というのは復活信仰なのです。今日のこのラザロの蘇りについても、これは一つの物語という「たとえ話」のようなものであって、実際の物語ではないとする人は、世界中に一杯いるわけです。「復活」は、たとえ話で、実際にはあり得ないこととする人は沢山いるわけです。しかし、誰が何と云っても、キリスト教の信仰というのは「復活信仰」なのです。キリストが十字架に死なれて3日目に復活された。このことはキリストの弟子たちにとって、そしてまた私たちキリストを信じる者にとっては、キリストの十字架の死の事実を克服する、圧倒的事実です。その復活されたキリストの顕現、現れ、そして現臨というのは、十字架の死を克服する圧倒的な出来事なのです。ですからキリスト教が生まれたのです。ですからこの復活の事実というのは、この世のどのような事実、現実よりも、現実的なのです。そのことを私たちキリスト者は信じているわけです。うや

むやに信じているのではありません。普通に考えれば、そんなことはあり得ない。常識ではそうです。けれどもその常識を破るところの出来事を神様は起こされたのです。そしてこの事実に対し、私たちは「アーメン」、「信じる」と告白します。この信仰を与えられたのは、これもまた奇跡なのです。復活の信仰を信じる信仰もまた奇跡です。そういうことを求めた人は一人もいないのです。けれどもその復活の事実には捕えられて、ほかのどんな現実も影が薄くなってしまふ。キリストが自分の前に現れてくださった。そういうことが私たちの信仰であり、キリスト教の核心であります。

◆ところで、ラザロと姉妹マルタ、マリアを主イエス様に本当に愛されていましたが、ラザロが危篤状態にある事を知らされても、なお2日、北方のベタニアにおられて、イエスさまがエルサレム郊外のベタニアに来られた時には、ラザロは死んで既に4日経っていました。しかし、墓に置かれたラザロに、「ラザロ出て来なさい」と大声で叫ばれると、ラザロが手と足を布で巻かれたまま出てくるのです。こういう次第です。そしてこの間、わずか4日なのですが、マルタ、マリアの姉妹、そしてラザロを愛する人々の悲しみ涙は、痛切なものでありました。第三者的な言い方をすれば、たった4日なのです。今日のところを見ると、「イエスは、再び心に憤りを覚えて、墓に来られた」とあります。この「心に憤りを覚えて」ということは、何を指しているのか。理解しづらい表現ですが、私はこういうことだと思いました。つまり、人間はその人生にいて、いろんな問題に遭遇します。そして命を落とすこともある。そして罪のない者を死に追いやる者もいる。そして痛みを感じないで虐殺するようなことも起こる。そういう人間世界というか、人間の愚かさというか、罪というか、無慈悲さというか、それらすべてに対するキリストの腹の底からの憤り、これが「心に憤りを覚えて」という事の核心ではないでしょうか。それらの悲惨から、人間を取り戻す。そういうことが「心に憤りを覚えて」という表現にこめられていると思います。

◆4日ならば耐えられる、ということがあるでしょう。しかしこの悲惨な4日でなくて4年ということもある。4年どころか20年ということもある。40年ということもある。人それぞれなのです。しかしキリストは、マルタ、マリアの使いを通してラザロの危篤状態を聞かれた時に、「この病は死で終わるものではない」と言われて、使いを返すわけです。そしてすぐにはベタニアに行かれなかった。その間にラザロは亡くなった。しかしこの病は死で終わるものでない。この悲惨はそのまま終わるものではない。このようにイエス・キリストが言われれば、キリストの御言葉は本当に真実なのですから、必ず語られた通りになります。私たちは信仰告白で「新旧約聖書は神の言にして」と、告白しています。けれども本当に私たちは、聖書に記されている神様の言葉を、イエス様の言葉を、「神の言」として真に受けて、信じてきたのか、と問われれば、それ程、真に受けてはいないのでないでしょうか。しかし「この病は死で終わるものでない」と、主イエス様はおっしゃったのです。そしてこの言葉が真実である事は、今日の箇所を実証されるわけですね。ですから、キリストの言葉、神様の言葉は、どの一つも空しくなるものはないのです。ことごとく実現し、成就します。

◆既に読んだ11章25節にこうありました。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも決して死ぬことはない」。この御言葉の真実です。「言葉」というヘブライ語は「ダーバール」です。この言葉は同時に「行為」、「事件」、「出来事」等の意味もあります。ですから神様の

言葉は、言葉なのですけれども、それは実行され、出来事になるのです。ですから、次の11章45節にこうあります。「マリアのところに来て。イエスのなされたことを目撃したユダヤ人の多くはイエスを信じた」と。ですからイエス様を信じるということは、その語られた言葉が現実になるということをも信じるということです。奇跡を行われるイエス・キリストを信じるということです。

◆他の福音書によると「イエスはすべての人の病を癒した」と記されています。「すべての人の病」ですから、例外はありません。11章の3節に「この病気は死で終わるものではない」と主イエス様は言われます。ですからイエス様の癒し、死を克服して命に至らせる癒しなのです。39節以下にこうあります。「イエスが、『その石を取りのけなさい』と言われると、死んだラザロの姉妹マルタが、『主よ、四日もたっていますから、もうにおいます』と言った。イエスは、『もし信じるなら、神の栄光が見られると、言っておいたではないか』と言われた」と。「もう四日もたっていますからにおいます。」このマルタの言葉は、「もうラザロは死んでしまったのです。四日も経ちました。すべてが遅かったのです。」そのような人間の絶望と悲しみを表わしています。これに対して主イエスは40節で「もし信じるなら神の栄光が見られると言っておいたではないか」と言われます。ここでは人間の絶望と神の愛と力がぶっつかっているわけです。そして神様には、イエス様には、おできにならないことは何一つないのであります。

◆パウロの言葉を借りれば、「神は全てを善きに変えて下さる方」です。ですから私たちには諦めるしかないことは実際にあるわけですが、神様には諦めも、絶望もありません。神様に出来ないことは何一つありません。そしてイエス様を通して示される神様には我々に対する真の同情があります。このように読んできまして、私はルカ伝の1章の『キリストの受胎告知』の記事を思い起こしました。天使ガブリエルがヨセフの婚約者マリアにキリストの受胎を告知しますと、マリアは「どうしてそのようなことがありましょうか。わたしは男の人を知りませんのに」と言いますと、天使は「聖霊があなたにくだりいと高き方の力があなたを包む。だから生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。あなたの親類のエリザベトも年をとっているが男の子を身ごもっている不妊の女と言われたがもう五か月になっている。神にできないことは何一つありません。」するとマリアは言います。「私は主のはしためです。お言葉通りこの身になりますように」と。これが信仰なのです。信仰は、見ないで信じるのです。見ないでその言葉の成就を確信するのです。常識的にはそんなことはあり得ません。

◆ここで、「ラザロ」という名前の意味をもう一度想起していただきたいと思えます。「ラザロ」というのは「神、救い給えり」という意味の名前です。そしてそれは、「神は必ず救い給う」という約束の意味にも展開して行きます。ラザロに起こったことは私たちにも起こるわけです。41節「人々が石を取りのけると、イエスは天を仰いで言われた。父よ、わたしの願いを聞き入れてくださって感謝します。わたしの願いをいつも聞いてください。聞いてくださることをわたしは知っています。しかしわたしがこういうのは、周りにいる群衆のためです。あなたがわたしをお遣わしになったことを、彼らに信じさせるためです。」ここでイエス様は「わたしの願いをいつも聞いてくださることをわたしは知っています」と、こういうふうにならぬ神様に言われます。祈りは、私たちの語る言葉は、すべて神様に聞かれているのです、とされています。「祈りは神との対話である」と言った人もいます。正に、わたしたちの祈りの言葉、

そして日常の言葉もすべて神様は聞いていてくださるわけです。ですから神様に助けを求めて祈りながら、そのことを信じないのならば、正にそれは不信仰の極みです。わたしたちもこれまで、神様に祈り、助けを求めてきました。それこそ御独り子をさえ惜しまず賜る神様がその他のいかなるものをも賜らないことはあり得ないことです。イエス様はラザロを助け給うた。死んで四日たっているラザロに「ラザロ、出てきなさい」と言われれば、ラザロは出てくるのです。イエス様はラザロを助け給いました。ですから私たちの祈りも聞かれています。決して空しくなることはありませんそれを叶えてくださるお方であります。

◆大阪北教会の信仰は、献堂して間もなく 10 年になりますが、「ヤハウエ・イルエ。主は備えてくださる」と定礎板に刻んでいます。これはアブラハムの信仰です。ローマの信徒への手紙 4 章にこのようにあります。「彼は希望するすべもなかったときに、なおも望みを抱いて信じ、あなたの子孫はこのようになると言われていたとおりに、多くの民の父となりました。そのころ彼はおよそ百歳になっていて、既に自分の体が衰えており、そして妻サラの体も子を宿せないと知りながらもその信仰が弱まりもしませんでした。彼は不信仰に陥って神の約束を疑うようなことはなく、むしろ信仰によって強められ。神を賛美しました。神は約束したことを実現させる力もお持ちの方だと確信していたのです」。そのようにパウロはアブラハムについて語っています。

◆今日の物語の「ラザロ」は「神、救い給えり」の意味です。そして、今申しあげた「ヤハウエ・イルエ」は「神、備えてくださる」であります。今日の 11 章 25 節に、「わたしは復活であり、命である、わたしを信じる者は死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも決して死ぬことはない。このことを信じるか」と、イエス様はマルタに言われました。この同じ問いかけをわたしたちは今受けているわけです。今日は実は竹村好香姉のお嬢さんの狩野絢子さんと御夫君の狩野順史さんがお見えになっています。竹村好香姉は去年 7 月 19 日に召されて、この 7 月 19 日で、1 年の記念日を迎えようとしています。それで姉妹は、今日岩田さんの座っておられるあたりにいつも座って礼拝を守られていました。今はそのお姿は見えませんが、召されて 1 年経ったというよりも、竹村好香姉は、信仰において私たちと共に生きておられることの方が、圧倒的にリアルです。今日の箇所、マルタは「もう四日もたっていますからにおいます」と言っています。しかし 1 年前に召された竹村好香姉の信仰と姿は、今も好い香りを放って、わたしたちを繰り返しはげましてくれています。これが「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はいつまでも死なない」。この信仰を与えられて百歳まで、貴重な歩みをされた姉妹であったと思います。私たちもこの死で終わる事のない命に生かされています。この事を日々感謝しつつ、歩みたく思います。

◆お祈りいたします

憐み深い主イエス・キリストの父なる神様

私たちに御言葉を賜り、そしてこの信仰の幸いへと召し入れて下さいましたことを心から感謝いたします。どうかこのように命を尊ばれるあなたを信じて、世界の、我が国のいかなる人もむざむざと命を奪われることなく、イエス様の御愛と救いに与ることができるように、どうか私たちに真の信仰と祈りと愛とを与えてください。

この祈りイエス様の御名を通し、御前におささげいたします。 アーメン。